

8 事前講習会

譲渡前に、事前講習会に出席してもらいましょう。犬の適切な飼育管理の方法と周囲へのマナー、健康管理と病気の知識、知っておくべき法律、そして不妊去勢手術の徹底などを伝えます。ほとんどの自治体が事前講習会に参加することを譲渡の条件としています。

譲渡前に行いましょう

定期的に（月に一回など）事前講習会を行い、別の日に譲渡会に来てもらう場合や、譲渡会の開催に合わせて、事前講習会を同じ日に行っている場合など、自治体によって開催のタイミングは様々です。

実際に譲渡する子犬を見せる前に、講習を聞いてもらうことが大事です。和歌山県動物愛護センターの場合は、午前中に事前講習会を行い、1時間ほどの昼休みをはさんで、譲渡会（実際に犬を見せる）を行っています。犬の飼い方や飼い主の責任などを説明した後に時間をおくことで、「本当に責任を持って犬を飼えるかどうか」を希望者に自問自答してもらうために有効なアイデアです。

わかりやすく伝えましょう

スライドや、実物（首輪やリード、おもちゃ、いたずら防止スプレーなど）を見せながら、わかりやすく伝える工夫をしましょう。しつけ方のビデオを上映したり、譲渡後に予定されている「しつけ方教室」の案内も併せて行うと良いでしょう。



Column

飼い主の心に届く伝え方をしましょう

「犬の糞をひろう」「放し飼いをしない」「鑑札をつける」といった内容を伝えるときには、「飼い主の義務だから、マナーだから」というだけでは、耳に残らない場合も多いので、「自分の犬を守るために」というアプローチをすると効果的なようです。

「糞をひろう」のは、寄生虫がいないか、下痢をしていないかなど、愛犬の健康チェックのため。「放し飼いをしない」のは、迷子や交通事故のリスクをさけるため。「鑑札をつける」のは万が一の時に確実に家に帰れるように。大切なペットが健康で幸せに長生きするために大事なことだと認識してもらうことが、ひいては模範的な飼い方につながるのです。また、飼い主のライフスタイルに合った犬を選ぶことが、人と犬双方の幸せにつながるというマッチングの重要性も、事前講習会でぜひ触れておきましょう。アウトドアを好む活動的な家庭にはどんな犬がいいのか、家で穏やかにかわいがりたい場合にはどうかなど、犬種の特性なども含めて話をしましょう。

さらに、大事な情報「不妊去勢手術の徹底」をどのように伝えると有効かは、不妊去勢手術のページを参考にしてください。

